

## 5 早期摘らいと中間台を利用すれば「おさゴールド」は大きくなる

### ねらいと成果

近年、黒斑病に強い梨の新品種「おさゴールド」が育成され産地では本品種への更新が進んでいる。しかし、本品種は自家結実性であり「二十世紀」よりも小玉であることが指摘されている。そこで「おさゴールド」の大果生産の可能性を検討した。

その結果、花の満開1週間前に1花そう<sup>1</sup>3花程度に摘らい<sup>2</sup>し、続いて満開2～3週間後に1果(花)そう1果に摘果すると、変形の少ない大きい果実が生産できる。さらに「二十世紀」を中間台にすると、果実が20～30g程度大きくなることを明らかにした。

### 内容

#### 1 方法

##### 試験1：早期摘らいと摘果時期の検討

摘らい・摘果の時期と果実品質の関係について調査するため、次の4区を設けた。満開1週間前に摘らい+満開3週間後に摘果(早期摘らい区)、満開1週間後に摘果(早期摘果区)、満開2週間後に摘果(中期摘果区)、満開3週間後に摘果(対照区)各処理区とも収穫適期に果実を一斉に収穫し、果実の変形程度(0：変形無し～3：かなり変形)と果実重を調査した。

##### 試験2：中間台の検討



梨の花そう

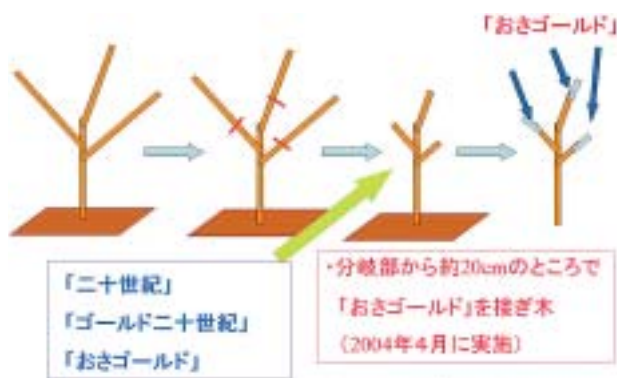


図1 異なる中間台を用いた「おさゴールド」の作製

中間台の効果をみるために、「二十世紀」「ゴールド二十世紀」「おさゴールド」の3品種を中間台とした区と中間台を使わない区(対照区)を設けた(図1)。各区とも収穫適期に果実を一斉に収穫し、1樹当たりの着果数、収量と果実品質を調査した。

#### 2 結果

盧 早期摘らいと摘果時期の検討：早期摘らい区は、他の区よりも明らかに果実が大きくなった(図2)。一方、果実の変形程度は摘果時期が早いほど大きく、早期摘果区が最も大きかった。早期摘らい区は対照区と同程度の変形程度であった(図2)。

邊 中間台の検討：「二十世紀」中間台は他の区と比べ明らかに果実重が大きくなった(データ略)。1樹当たりの収量は「二十世紀」中間台区が他の中間台よりも多くなった(データ略)。

### 今後の方針

中間台効果の持続性を検討するとともに、早期摘らい・摘果の現地実証を行い、現地適応技術として確立する。

松浦 克彦(北部農技 農業・加工流通部)

(問い合わせ先 電話：079-674-1230)

- 1 花叢と書く。梨は1芽から8つの花が咲き、これを花そうと言う。
- 2 つぼみの状態の花を間引くこと。

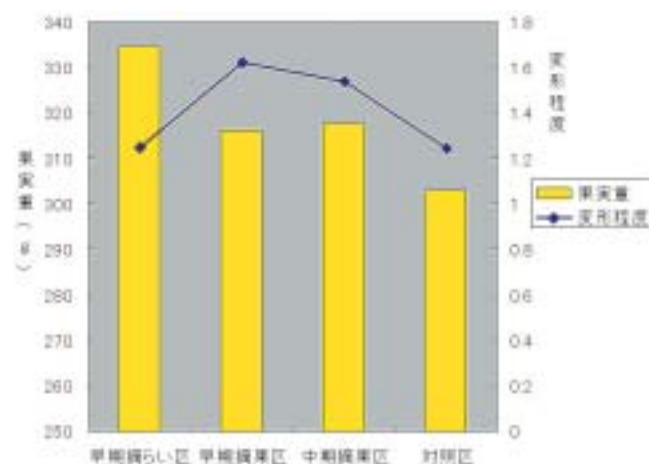


図2 早期摘らい・摘果と果実重・変形程度の関係